

2021 重大 NewS



沖縄総合事務局

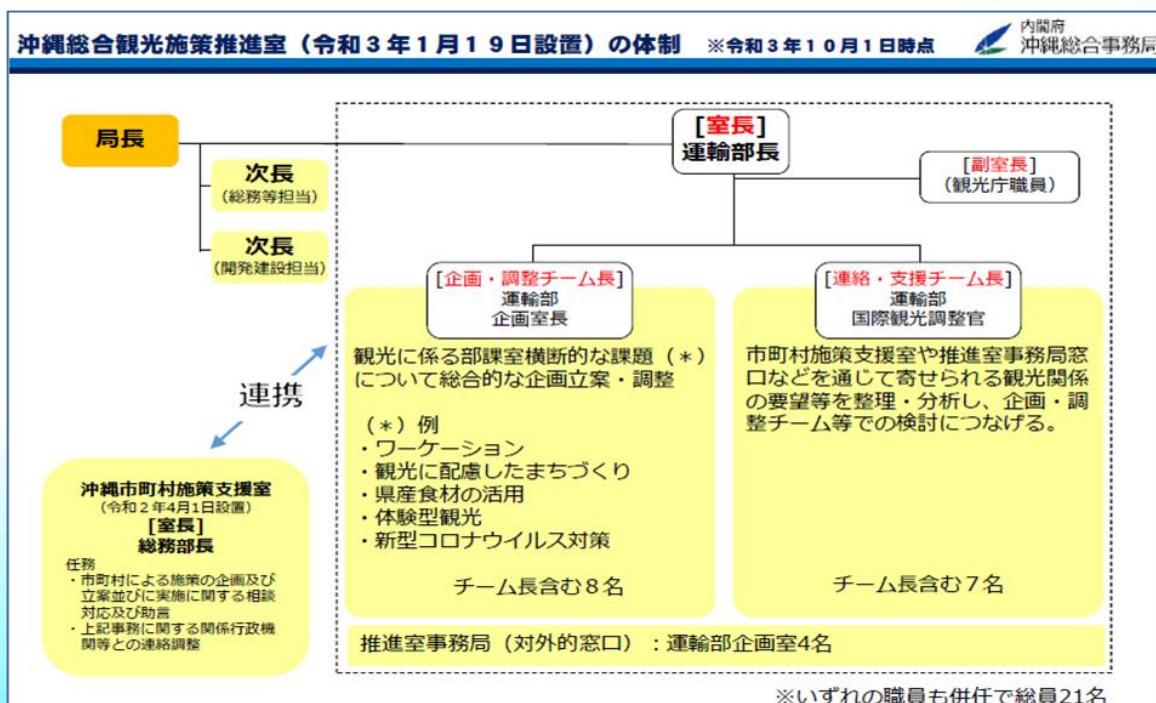
「沖縄総合観光施策推進室」の発足

2021.01 【運輸部】

市町村等からの観光に関するニーズを的確に吸い上げ、沖縄県内における国の部課室横断的な連携を推進することにより、観光施策の企画・立案・調整を積極的に行う体制を強化するため、令和3年1月19日に「沖縄総合観光施策推進室（以下「推進室」という。）」が発足しました。

推進室では、コロナ禍で危機的な状況にある観光業界に対しオンライン説明会で各種支援措置を紹介する等の支援を行うとともに、国際的・全国的な視点に立ち、沖縄観光において先端的・モデル的な取組事例を創出することを目指した取組を行ってまいります。

■沖縄総合観光施策推進室（令和3年1月19日設置）の体制



【推進室看板掛けの様子】



【推進室打合せの様子】

県内の国の合同庁舎に コンビニが初出店

～市町村の特産品販売コーナーを併設～

2021.02 【総務部】

本年2月、那覇第二地方合同庁舎2号館（沖縄総合事務局）1階に、国の合同庁舎では県内初のコンビニ参入となる沖縄ファミリーマートがオープンしました。

コンビニのオープンにより、飲食物の販売はもとより、要望の多かったATMやマイナンバーカードによる各種証明書を取得できる機器が設置され、来庁者等の利便性の向上が図られています。

また、当局では、昨年4月に「沖縄市町村施策支援室」を設置し、市町村による沖縄振興施策の企画立案を積極的に後押しするとともに、各圏域市町村等に対する相談体制を強化し、市町村の支援に取り組んでおり、その一環として、沖縄ファミリーマート様のご協力により、県内各市町村の特産品の販売を行っています。



特産品販売セレモニーの様子

（左から 宮城大宜味村長、吉住前局長、ミス沖縄山里ひかるさん、當山東村長）

本庁舎には、県民の皆様、県内外からの出張者や事業者の皆様も多数来庁していただいており、また、令和5年度には、本合同庁舎敷地内に3号館も完成することから、県産品を県内外にアピールし、認知度を向上させる発信地になると考えています。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、沖縄県の経済はかつて経験したことのない深刻な状況に直面しており、特に沖縄経済のリーディング産業である観光関連産業は非常に厳しい状況となっておりますので、各市町村の特産品の販売を通して、市町村の支援のみならず、観光産業への後押しになるよう取り組んでまいります。



パインアップルマン1号
(東村)

おおぎみシーサーちゃん
(大宜味村)

キヨンキヨン
(国頭村)



那覇第二地方合同庁舎サテライト店オープンセレモニー
(左から 野崎社長、吉住前局長、ミス沖縄岩本華奈さん)

これまで、第1回（石垣市・竹富町・与那国町）、第2回（国頭村・大宜味村・東村・伊江村・伊平屋村・伊是名村・西表島）、第3回（読谷村・北谷町・沖縄市・うるま市）、第4回（南城市・八重瀬町・南風原町・与那原町・北大東村・南大東村）の計19市町村の特産品を販売し、今後2年間で県内全市町村の特産品の販売を予定しています。



ミス沖縄新里瑞紀さんおすすめ

沖縄版・企業支援による コロナへの挑戦

2021.02 【財務部・経済産業部】

沖縄総合事務局は、コロナ禍の中、経営課題に直面する事業者に対して、金融機関、信用保証協会、中小企業再生支援協議会など、支援機関が連携を強化して、経営改善・事業再生・事業転換支援等を行うためのノウハウを醸成するセミナーを開催し、沖縄県経済の力強い回復に繋がるよう後押ししています。2021年は、地域金融機関や支援機関の役職員等を対象として事業再生支援等の知見・ノウハウを醸成するセミナーを計3回開催しました。

当局では、今後も、企業支援機関向けのセミナーを継続して実施するなど、持続的な地域経済エコシステムの形成、コロナ後の経済の力強い回復を後押ししていきたいと考えています。

「伴走型企業支援、企業再生支援、 地域サービスによる支援」(R3.2.19 開催)



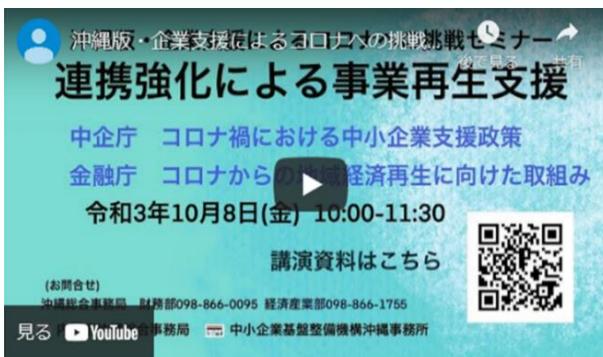
<https://www.youtube.com/watch?v=JbxZTXNxM6M>

「事業承継支援」(R3.6.4 開催)

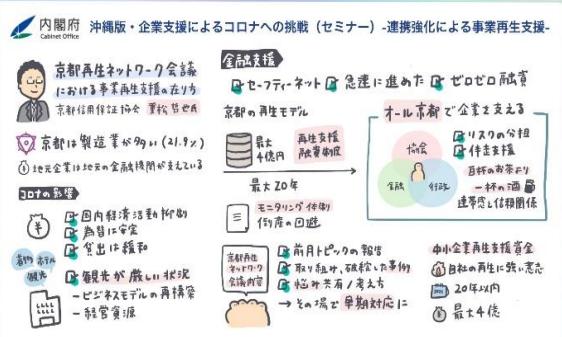


https://youtu.be/M7k_oX9NRz8

「連携強化による事業再生支援」(R3.10.8 開催)



<https://youtu.be/fLgP8So0ktc>



http://www.ogb.go.jp/zaimu/zaimu_renkei/seminar3

※基調講演の模様・講演資料等は、沖縄総合事務局ホームページより閲覧・ダウンロード可能。

http://www.ogb.go.jp/zaimu/zaimu_renkei

琉球大学、名護市へ 国有財産を売却

～国有財産を活用した地域連携～

2021.03 【財務部】

国有財産の売却に当たっては、国民共有の貴重な財産であることを踏まえた公用・公共用優先の原則に基づき、地域と連携した国有財産の有効活用を通じ、地域・社会のニーズに対応しています。

☆ 「琉球大学医学部及び病院の移転整備用地」として売却

米軍より返還された西普天間住宅地区跡地に所在する国有地（約 11 千m²）を「琉球大学医学部及び病院の移転整備用地」として活用するための売買契約調印式が 3 月 16 日（火）に行われ、琉球大学西田学長と吉住前局長が売買契約書に調印しました。



【完成イメージ図：琉球大学資料】

今後、琉球大学医学部と病院移転により、沖縄の医療体制の中核となる施設が整備され、高度医療や研究機能の充実、地域医療水準の向上などにつながることが期待されています。



【調印式の様子】

☆ 「名護市ワーケーション拠点施設」として売却

名護市字喜瀬部瀬名原に所在する旧沖縄総合事務局研修所等の土地（約 16 千m²）・建物を「名護市ワーケーション拠点施設」として活用するための売買契約調印式が 3 月 25 日（木）に行われ、渡具知名護市長と吉住前局長が売買契約書に調印しました。



【旧沖縄総合事務局研修所の外観】

名護市が同施設を整備し、周辺リゾートホテル等と連携してワーケーションブランドを確立させ、新しい働き方としてのワーケーション需要を取り込むことで、来訪者及び観光収入の増加や、企業誘致につながることが期待されています。

名護市ワーケーション拠点施設整備に係る
国有財産の売買契約調印式

内閣府沖縄総合事務局・名護市



【調印式の様子】

国道329号 西原バイパス 令和3年度から新規事業化

5

2021.04 【開発建設部】



なかぐくそん にしへらちょう おなは
中城村及び西原町における国道329号は、生活交通と物流交通が混在し、主要渋滞箇所である小那霸交差点では、朝夕を中心に交通渋滞が発生し、地域の産業振興、経済活動を行ううえで大きな障害になっています。また、大雨により近隣河川の増水による道路冠水のため、国道の全面通行止めも発生しています。

このような背景のもと、交通の円滑化、災害時に強い道路ネットワークの確保、産業振興、周遊観光の支援を図るため、バイパスの事業化に向けた各種手続きを進めてきました。平成29年度から計画段階評価に着手し、令和2年度の都市計画変更手続きを経て、令和3年度に新規事業着手し、現在は、調査設計を実施しています。

西原バイパスは、隣接する与那原バイパス、南風原バイパスと一体となり、中城湾港など東海岸地域から那覇市までのアクセス向上に大きく貢献する事業であり、早期開通に向けて事業を推進してまいります。



写真: おなは 小那霸交差点渋滞状況



写真: おなは 小那霸交差点付近冠水状況



北部の道路がさらに便利に！快適に！

名護東道路全線開通／道の駅「許田」リニューアル



6

2021.07 【開発建設部】

令和3年7月31日（土）、国道58号名護東道路（世富慶IC～数久田IC間2.6km）が2車線開通となりました。名護東道路6.8kmの全線開通により、許田IC（沖縄自動車道）～伊差川IC（名護東道路）までノンストップでの走行が可能となり、北部地域や那覇空港等へのアクセスがさらに向上しました。



同日、道の駅「許田」では、海側の新たな駐車場とともに、道路情報ターミナルがリニューアルされました。道路情報ターミナルの展望テラスからは名護湾が一望でき、やんばるの自然を楽しみながら休憩していただける施設となっています。

北部地域へお越しの際は、是非、道の駅「許田」へお立ち寄り下さい。



道の駅「許田」
リニューアルオープン！！



展望テラスからの
名護湾の夕陽は「最高」です！！

伊良部島でスプリンクラーによる散水を開始

～地下ダムによる農業用水の安定供給が実現～

2021.08【農林水産部】

令和3年8月2日、国営かんがい排水事業「宮古伊良部地区」の受益地の一部である伊良部島で農業用水の散水式が開催され、受益者をはじめ、宮古土地改良区、沖縄県、沖縄総合事務局等の関係者約40名が出席しました。散水式では、主催者挨拶、来賓者祝辞に続き開栓セレモニーが行われ、その後散水が開始されました。

伊良部島では、大部分の農地は降雨に依存しており、島全体の必要水量を供給する水源が不足しているため、気象に大きく左右される農業経営を余儀なくされてきました。

このため、伊良部島における農業用水の安定的な供給を図ること等を目的として平成21年度から国営かんがい排水事業「宮古伊良部地区」を実施しています。本事業では、仲原地下ダムの整備をはじめ、伊良部大橋橋梁内にパイプラインを整備しました。併せて関連事業により畑地かんがい施設等の整備が進められ、令和3年7月までに県営「魚口地区」の一部農地においてスプリンクラーが整備され、農業用水の安定供給が実現しました。

今後、伊良部島において畑地かんがい施設が順次整備されることによって、農業経営の安定化と施設園芸などの高付加価値農業の展開が期待されます。

位置図



開栓セレモニー



散水の様子

沖縄県産黒糖の魅力を伝え 需要・販路拡大に向けた取組

2021.08 【農林水産部】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による沖縄県内への入域観光客やインバウンド需要の大幅な減少などに伴い、土産品となる沖縄黒糖や菓子類の原料として使用されている沖縄県産黒糖も大幅に需要が減少し、在庫が積み上がった状況が続いている。

そのような中、沖縄総合事務局は、「沖縄県産黒糖需要拡大・安定供給体制確立実証事業」を実施しています。

本事業の取組の一環として、本年8月5日に東京都で「沖縄県産黒糖・料理専門家評価会」を開催しました。当評価会では、日本料理、和菓子、イタリアン、フレンチ、パティシエの分野で活躍する料理専門家を招聘し、県内の離島8島で作られた黒糖を使ったオリジナル料理の創作を通じて、沖縄県産黒糖の魅力や新しい使い方を発表していただきました。どれも美味しいレシピとなっておりますので、ぜひ下記URLから動画をご覧下さい。

また、本事業に関連して消費拡大にご協力を頂いた、株式会社セブン-イレブン・沖縄において、新たな沖縄県産黒糖関連商品の販売が11月30日から始まりました。新商品の「黒いメロンパン」、「黒糖ロールケーキ」など5つの商品が県内各店舗にて販売中です。ぜひご賞味下さい。

沖縄総合事務局としても、引き続き、沖縄県黒砂糖協同組合、JAおきなわ、沖縄県などの関係機関と協力し、さらなる沖縄県産黒糖の消費拡大に取り組んでまいりますので、県民の皆様もご協力をお願いします。



評価会当日の様子は沖縄県黒砂糖協同組合のウェブサイトで公開しています

(前半 <https://www.youtube.com/watch?v=RP50ZDDSQjA>)

(後半 <https://www.youtube.com/watch?v=LkAMsj0HmrU>)

○料理専門家評価会で創作された黒糖使用料理の一部



沖縄アグーの黒砂糖赤ワイン角煮



モンブラン



クルミとかちわり黒糖の求肥包み

沖縄総合事務局が 「エコ通勤優良事業所認証」取得！

2021.10 【運輸部】

沖縄県内では、通勤・通学など、日常の移動手段をマイカーに依存する傾向が強く、朝夕を中心に交通渋滞が発生しています。また、マイカー利用はバスの約2.5倍のCO₂を排出するため※、地球温暖化対策の観点からも、過度なマイカー依存からの脱却によるCO₂排出量の抑制が必要です。

さらに、バスやモノレールなどの公共交通はコロナ禍により極めて厳しい経営状況にあり、県民が公共交通を利用することにより、公共交通を支えていくことが必要な状況となっています。

沖縄総合事務局では、自らが率先して職員の「エコ通勤」を実施することで、波及的に企業や県民の公共交通利用に対する意識啓発になると考え、令和3年10月、「エコ通勤優良事業所認証」を取得しました。

「エコ通勤」とは、「クルマから、環境にやさしいエコな通勤手段に転換すること」です。

事業所や地域で「エコ通勤」に取り組むことにより、従業員の安全確保や健康向上などといったメリットが期待されるとともに、渋滞解消や公共交通の維持など、地域にとってのメリットも期待されます。

「エコ通勤優良事業所認証」とは、エコ通勤に関する取組を自主的かつ積極的に推進している事業所を優良事業所として認証し、登録する制度です。公共交通利用推進等マネジメント協議会（認証制度事務局：国土交通省、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団）にて認証・登録を行います。

クルマを降りれば、周囲の景色が変わります。自治体・企業・団体の皆様、一緒に「エコ通勤」を始めましょう！

バスや自転車で通勤する職員



※環境:運輸部門における二酸化炭素排出量「2. 輸送量当たりの二酸化炭素の排出量」 - 国土交通省

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html

テレワーク・ワーケーションの推進

ワーケーションウィークオキナワ (WWO) 初開催

ワーケーション連携協定制度設立

2021.11 【経済産業部・沖縄総合観光施策推進室】

温暖な気候や観光地としての魅力に優位性を持つ沖縄では、ワーケーションをきっかけとした関係人口の創出や、県外企業の沖縄進出、新たな産業創出、沖縄観光の滞在日数の延長に期待が高まっています。

内閣府沖縄総合事務局では、沖縄でのワーケーションの受入促進を目的に、11月13日～28日に「ワーケーションウィークオキナワ (WWO)」を初開催しました。「休暇だけの沖縄なんてもったいない。これから、WorkとLifeを考える16日間。」をキーメッセージに、県内各地で46のイベント開催や、コワーキング利用促進キャンペーン、「ResorTech EXPO in OKINAWA 2021」にて県内58カ所あるコワーキング施設のPRを行いました。

また、企業との連携を推進するため、「ワーケーション連携協定制度」を設立しました。第一号で協定締結した「富士通Japan株式会社」は、WWO期間中に本社社員が読谷村と宮古島市にてワーケーションを行い、ワークショップを通じて自治体職員や地域の方々と一緒に地域課題の解決に取り組みました。

直前までコロナの影響で開催自体が危ぶまれましたが、多くのテレワーカーを実際に受け入れることで、アフターコロナを見据えたワーケーションの可能性を探ることができました。ワーケーションをきっかけとした、企業進出、長期滞在、移住定住、離島の活性化、人材育成など、ワーケーションの可能性は多岐にわたります。場所にとらわれない働き方がもたらす地域振興を、これからも推進してまいります。



「事業承継」

～輝く沖縄の未来に！ 次世代へ繋ぐバトン～

11

2021.11 【経済産業部・財務部】

県内事業者等に対し、事業承継の大切さを訴えるため、沖縄県、県内金融機関等と連携し、初の取組として「事業承継啓発月間」を11月に開催しました。

抱腹絶倒のお笑い事業承継劇場の開催のほか、金融機関の頭取等によるトップ対談や啓発セミナーなど盛りだくさんのイベントを期間中に企画・開催し、地元メディアでも大きく取り上げられるなど、大きな反響がありました。

次年度以降も継続開催することにより、事業の継続を通じて、地域住民の暮らしを支えるほか、文化的創造等をはかり、地域の活性化につなげてまいります。



金融機関等トップ対談後
記念写真に納まる登壇者等



抱腹絶倒のお笑い事業承継劇場
「あぎじやび商店」(FEC)

金融機関等トップ対談を大々的に報じる地元2紙（琉球新報・沖縄タイムス）



2021.11.14 琉球新報掲載



2021.11.24 沖縄タイムス掲載

クルーズの質の向上を目指した

港湾管理者等との連携

～クルーズポートコンソーシアム沖縄における統一した優先予約の開始～

2021.12 【開発建設部】

沖縄総合事務局では、県内港湾管理者（沖縄県、那覇港管理組合、石垣市、宮古島市）と連携とともに、県内港湾へのクルーズ船の寄港に関する課題等（寄港誘致等）に関する情報共有・意見交換を行う場として、「クルーズポートコンソーシアム沖縄」（以下「本コンソーシアム」という。）を令和2年度に設立いたしました。

これまで、本コンソーシアムでは、県内港湾のクルーズの予約受付方法について改善を検討し、本年5月～6月にかけて、各港湾（石垣港、平良港、中城湾港、本部港）で優先対象・受付方法等を統一した予約制度（以下「本優先予約」という。）を初めて試行いたしました。

従前は各港湾管理者がそれぞれ予約受付を行っており、予約確定の結果公表時期もばらばらであったため、各港湾への予約が個別に必要であることに加え、予約の仮押さえなどによる県内港湾での重複予約や直前のキャンセルが相次ぎ、各港での機会損失が発生しておりました。本優先予約の実施により、各港湾ではなく、クルーズの行程単位での申請が可能となったことで、重複予約を事前に防止し、各港の機会損失を軽減することが可能になります。

さらに、本優先予約では、沖縄県が新たな振興計画で掲げることを検討している「質の高いクルーズ観光の推進」に向け、沖縄発着クルーズ（フライ＆クルーズ促進）、ワールドクルーズ（ラグジュアリー船誘致）を優先対象とし、統一した考え方で予約を確定するため、県全体での効果的なポートセールスも可能となります。

クルーズ船社からも「岸壁予約の利便性が向上し、沖縄発着クルーズを企画しやすくなった。」との反応をいただきしております、今後も継続する取組として、12月21日に本コンソーシアムの幹事会（部長級）を開催し、本優先予約の試行結果とともに報告しました。

優先予約の対象クルーズ

沖縄発着クルーズ

那覇港・平良港・石垣港・中城湾港もしくは本部港を乗船港、下船港とするクルーズ。
居住地からクルーズの発着港まで航空便で移動する観光スタイル。



乗船客が発着地で前泊や後泊を伴うことが多く、出港前や帰港後の観光も含めた消費活動が見込まれるため、発着地における更なる消費拡大が期待できる。

ワールドクルーズ

平良港・石垣港・中城湾港もしくは本部港を一時寄港地とし、行程が100日以上で15か国以上の20か所以上の寄港地をめぐるクルーズ。
ラグジュアリークラスのクルーズが多い。

世界の各地を回る長期周遊型のクルーズ



ラグジュアリークラスのクルーズ旅客は、自由裁量時間に恵まれ、かつ経済的余裕があることから、文化体験などの「コト体験」の旅行スタイルが多く、寄港地での消費拡大が期待できる。

予約申請イメージ

（例）●月にA港→B港→C港、
■月にA港→C港→D港（県外）→B港 の予約を希望する場合

従前 それぞれの港湾に対し予約が必要

（※一部の港湾で予約できなかった場合、クルーズ日程全体を見直す必要が生じ、場合によっては予約ができていた他港の変更予約も生じていた。）

A港
予約開始：○月～
優先順位：先着順

B港
予約開始：△月～
優先順位：非公表

C港
予約開始：□月～
優先順位：先着順

●月の予約
■月の予約

代理店等

本優先予約 各行程ごとの申請が可能

代理店等

A港→B港→C港（●月）

A港→C港→
D港（別途申請）→B港（■月）

コンソーシアム
A港
B港
C港

